



スタートアップワールドカップ2024京都予選 ヘラルボニーが優勝



スタートアップのピッチコンテスト「スタートアップワールドカップ2024」の京都予選が2024年5月21日、京都大学百周年記念ホール（京都市）で開催され、知的障害のある作家のアート作品をデータ化するとともに著作権の管理などを行うヘラルボニー（盛岡市）の松田文登代表取締役が優勝トロフィーを手にした。

同社は2024年10月に米サンフランシスコで開催される決勝大会に、東京予選（7月19日開催予定）と、九州予選（8月27日開催予定）の優勝企業とともに日本代表として出場する。

関連記事はこちら・「スタートアップワールドカップ」京都予選 スマートハウスのHOMMA Groupが優勝・「スタートアップワールドカップ」東京予選 アイリスが優勝

スタートアップのピッチを1500人が観戦

京都予選は米国のベンチャーキャピタルであるペガサス・テック・ベンチャーズ（カリフォルニア州）が、京都大学経営管理大学院と共同で開催、126社の応募企業の中から書類審査を通過した12社がプレゼンを行った。

会場には大企業の担当者や投資家、登壇スタートアップ企業の関係者ら約500人（オンラインを含め1500人が観戦）が訪れ、スタートアップが生み出した新しい技術やサービスの説明に聞き入った。

優勝したヘラルボニーの松田氏は「ヘラルボニーは知的障害のある四つ歳上の兄が7歳の時に自由帳に書いていたなぞの言葉で、それをそのまま社名にした。障害のある方は心で面白いと思ってもなかなか言語化できない。これを言語化していける会社でありたいと考え、社名をヘラルボニーにした。グローバルな新たな価値観を作ってきたいと強く思っており、決勝では全力でピッチをし、優勝を目指したい」とあいさつ。

またコンテストに先立ち「日本の大企業とベンチャーのコラボレーションが必須」をテーマに登壇したジャパネットホールディングス（長崎県佐世保市）の高田旭人社長は「スタートアップには強い思いを持った方と、これなら勝てるというロジックを持った方がおられる。中には思い先行でロジックがついてこない方や、ロジックを楽しんでいるが思いがない方がおられるが、出資側としてはバランスのいい経営が重要だと感じている」と、スタートアップの経営にアドバイスを送った。

「スタートアップワールドカップ2024」京都予選で登壇したパネットホールディングスの高田旭人社長
日本3カ所で予選を実施

スタートアップワールドカップは、2017年に第1回目が開催され、今回が6回目。京都での予選開催は昨年に続く2回目、九州予選は今年が初めて。

世界100ほどの国と地域で予選が行われ、3万社以上のスタートアップがエントリーを行い、各地の予選を勝ち抜いた企業が米国での決勝大会で、優勝投資賞金100万ドル（約1億5000万円）を競い合う。

合わせてスタートアップワールドカップ日本予選の主カスポンサーであるジャパネットホールディングスと、セガサミーホールディングス<6460>の両社が、日本予選の全応募企業の中から、それぞれ1社に特別賞として5000万円ずつを出資する。

文：M&A Online

【M&A Online 無料会員登録のご案内】6000本超のM&A関連コラム読み放題!!
M&Aデータベースが使い放題!!登録無料、会員登録はここをクリック